

2018年度 日本臨床歯科医学会 北海道支部 第1回支部学術大会

一般講演 1

重度な酸蝕症と臼歯部欠損により咬合崩壊を起こしている患者に対し、
インプラントを用いて全顎的な咬合再構成を行なった1症例

にこにこ歯科

堀 聖尚

事前抄録

「酸蝕症」は20年以上前は強酸を扱うメッキ工場の工員等、特殊な環境下
で発症しうる疾患として紹介されていた。

しかし現在では、その要因が職業性だけでなく、持続性の胃食道逆流性疾患や、
酸性飲食物の過剰摂取など多岐に渡ることが理解され、日常的に起こりうる
歯の疾患だとの認識へ変化してきている。

エナメル質の脱灰により中心位と咬頭嵌合位にズレが生じると様々な問題

を起こし咬合崩壊に至る場合が考えられる。

今回の症例は中心位と咬頭嵌合位のズレに咬合低下が見られたため、
診断用ワックスアップで理想的な咬合高径を予想し、欠損部にインプラントを
施し、プロビジョナルレストレーションで評価した。咬合の安定と審美的な満足
が得られたため最終補綴に至った症例を供覧する。